



SDGs for School

produced by Think the Earth



曹洞禅

⑤

The Third Year



今回は、7月号に引き続き「仏教とSDGs」の関係について学んだメンバーの感想と、これからの未来を生きる私たちに必要なスキルに関する概念「DGS」について紹介します。

○ほら
大学3年生

私は、どんな人でも、その心の中には必ず仏がいることを信じているとお話で印象的でした。自分と価値観の合わない人や、性格が

合わない人は、世の中にたくさんいます。一方で、価値観の一致する人と出会うことは奇跡だと思っています。私は、人から余計な一言を言われて嫌な思いをした時は、その一言に対して深く考えるのではなく、その人の背景を思い浮かべるようにします。その人の生き方や社会環境は私とは全く違うから、その人にとつての価値観と私にとつての価値観は違って当たり前。そう考えることによって、我慢をする必要がなくなります。我慢して嫌な一言に耐えるのではなく、想像して自分の心を癒します。嫌なことを言われるだけでも傷つくのに、それに耐えようとしたら、さらに自分を傷つけることになります。なので、少し視野を広げて



○ぶりん
高校2年生

みることで、相手も自分も傷つくことなく、関係を築いていけます。どんな人にも良心があるということと相手の背景を想像することが重なっているように、今回のお話を受けて、考えました。

私は、今回お話を聞いて一番印象に残ったことは「仏は拜むものではなく、なるもの」ということです。私は、仏は偉い人だったというイメージがありました。しかし、仏というのは賢く、優しい人が仏になれることを知りました。ここでいう賢い人とは、物事がちゃんと見えている人ということ





す。そういう人は優しい人になれると、お話を聞いて実感しました。私も周りが見えているときは、人が困っていることや何をすればいいのかなど考えることができません。ですが、自分のことだけ考えているときは、視野が狭くなり他のことが考えられなくなってしまう。

「耕作放棄地」が日本の社会問題の一部になっています。これは、生産者が高齢になっていき、農地を放棄しなければならぬ状況があります。日本が高齢化社会になっていくということは、さらに生産者が減っていきつてしまいます。普段の生活や社会問題でも、物事をちゃんと見える人になっていきたいです。

みなさんは、IDGs (Inner Development Goals) をご存知でしょうか。これは、持続可能な社会を目指す私たちに必要とされる能力やマインドについて提案されたもので、以下のような5つのカテゴリと23のスキルとなっています。

- ① 自分のあり方—自己との関係
- (1) 内なるコンパス
 - (2) 誠実・真摯で、本物である
 - (3) オープンさ、学ぼうとする意欲・姿勢
 - (4) 自分を理解する力
 - (5) プレゼンス
- ② 考える—認知スキル
- (6) クリテikal・シンキング
 - (7) 複雑さへの認識
 - (8) パースペクティブ・スキル
 - (9) 意味を見

- 出す力 (10) 長期志向とビジョニング
- ③ つながりを意識する—他者や世界を思いやる
- (11) 感謝
 - (12) つながっているという感覚
 - (13) 謙虚さ
 - (14) 共感と思いやり
- ④ 協働する—社会的スキル
- (15) コミュニケーションスキル
 - (16) 共創スキル
 - (17) インクルーシブ・マインドセット
 - (18) 信頼
 - (19) 集団を動かすスキル
- ⑤ 行動する—変化を推進する
- (20) 勇気
 - (21) 創造性
 - (22) 楽観性
 - (23) 粘り強さ

気になるカテゴリやスキルはありますか？
これは、SDGsの取り組みに盲点があり、多くの国々で各年度





の達成状況が著しくないことから、

実行に必要な能力やマインドをもつ人の不足が原因だとされ、人々の内面の成長について議論が始まりました。日本国内でもSDGs

の社会的な認知は高まっています。が、具体的な行動の少なさや、取り組みが表面的であったり、宣伝的な役割でとどまっているなどの批判も多くあります。

提案チームは、成人発達理論の研究者、心理的安全性の研究者、システム思考を含む学習する組織の研究者などで、メンバーにはSDGsの17の目標や169のターゲットの内容やロゴのデザインにも関わったメンバーも含まれており、2022年に国連でも承認されたものです。

SDGsはSDGsの達成のため使用される目標ではなく、これからの時代で使われ続けるものでありたいと作成者たちは主張しています。

変化の激しい時代であり、地球の持続性を考え続けていく時代だからこそ、私たちに「何を持つか (to have)」ではなく「どうあるか (to be)」または、どうあり続けるか? が重要とされ、私たちは常に成長を続けていくことが求められているとも言えそうです。SDGsの内容は、6月号でも紹介した「菩薩の教え」とつながる点も多く、SDGs時代の前から、人々の「あり方」は問われ続けているのかもしれませんが、時代を超えても、人間のあり方の問い

は、普遍的なですね。(山藤)

◆夏のイベントの紹介

2022年グッドデザイン大賞を受賞した「まほうの다가しやチロル堂」の公開取材を計画しています。チロル堂を立ち上げた吉田田カシさんは、貧困や孤独といった環境にある子どもたちを、駄菓子屋という空間をアレンジして、地域みんなで子どもたちを支えるしくみをつくりました。そんな吉田田さん取材します。

- ・日 8/20 (日) の午後
 - ・場所 東京グランドホテル
- オンラインとリアル
のハイブリットを
予定。ぜひ、ご参加
ください。

